

ラポール

～繋がっていいこうか～

チームメンバー

阿南 今泉 井用 平岡 堀 増田

目次

1 : 課題

2 : 解決策

① インターン

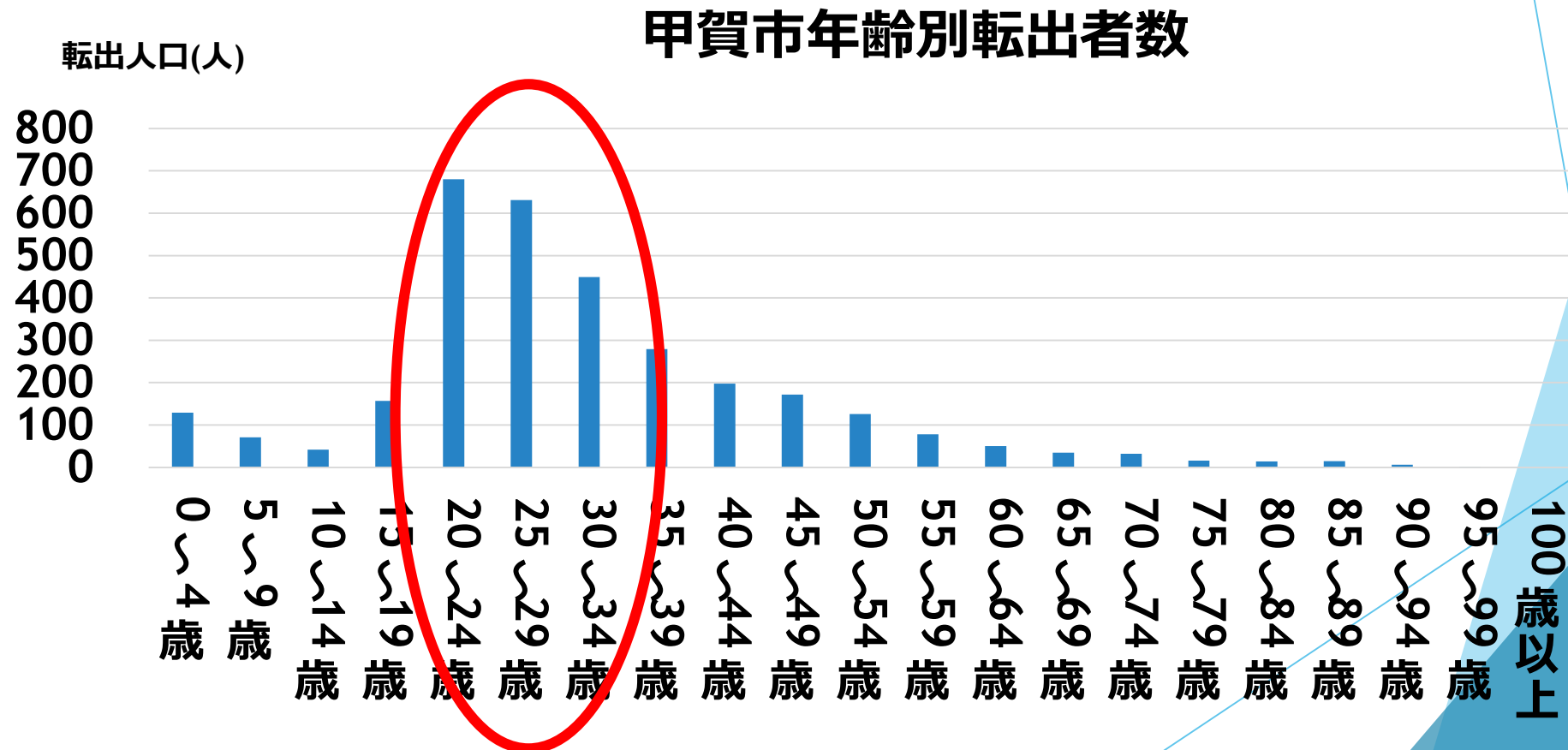
② 食事会

3 : 展望

課題

1：若者の流出

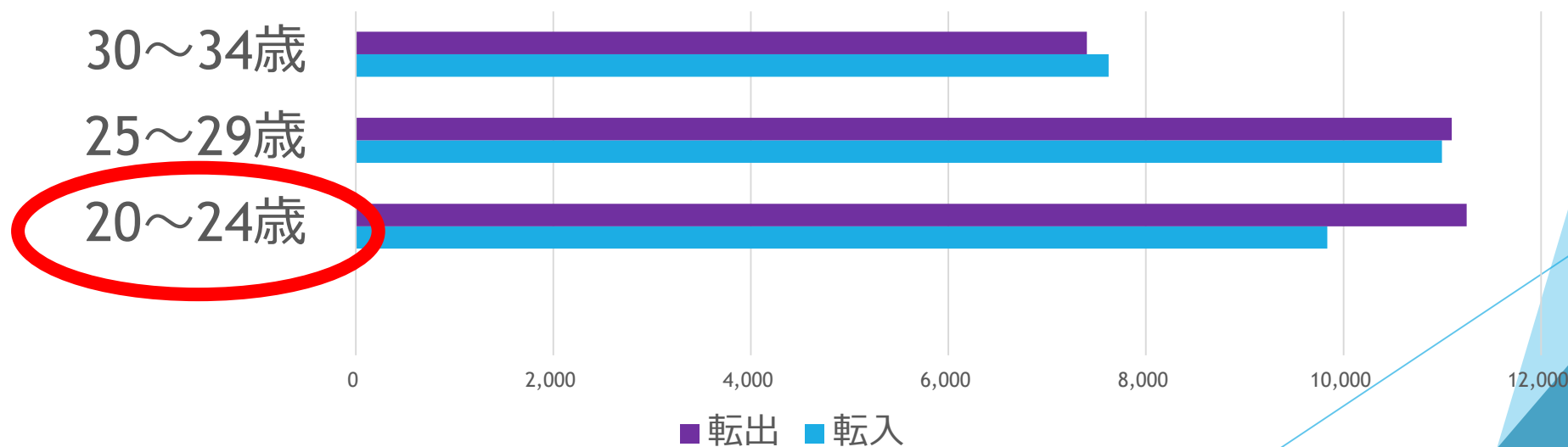
若者の県外流出が深刻 (2020年滋賀県推計人口年報)



就職を機に離れる若者

- ▶ 20～24歳の転出人口 > 20～24歳の転入人口
- ▶ 就職を機に出る人が入ってくる人より多い

20～34歳の滋賀県転出転入人口



・甲賀市の若者の現状

▶ 令和3年の成人式で実施した調査

▶ 「10年後に甲賀市に住んでいたいですか？」

→ 「いいえ」と答えた人の理由一位

▶ **「働く場所・学校がない」 (16.4%)**

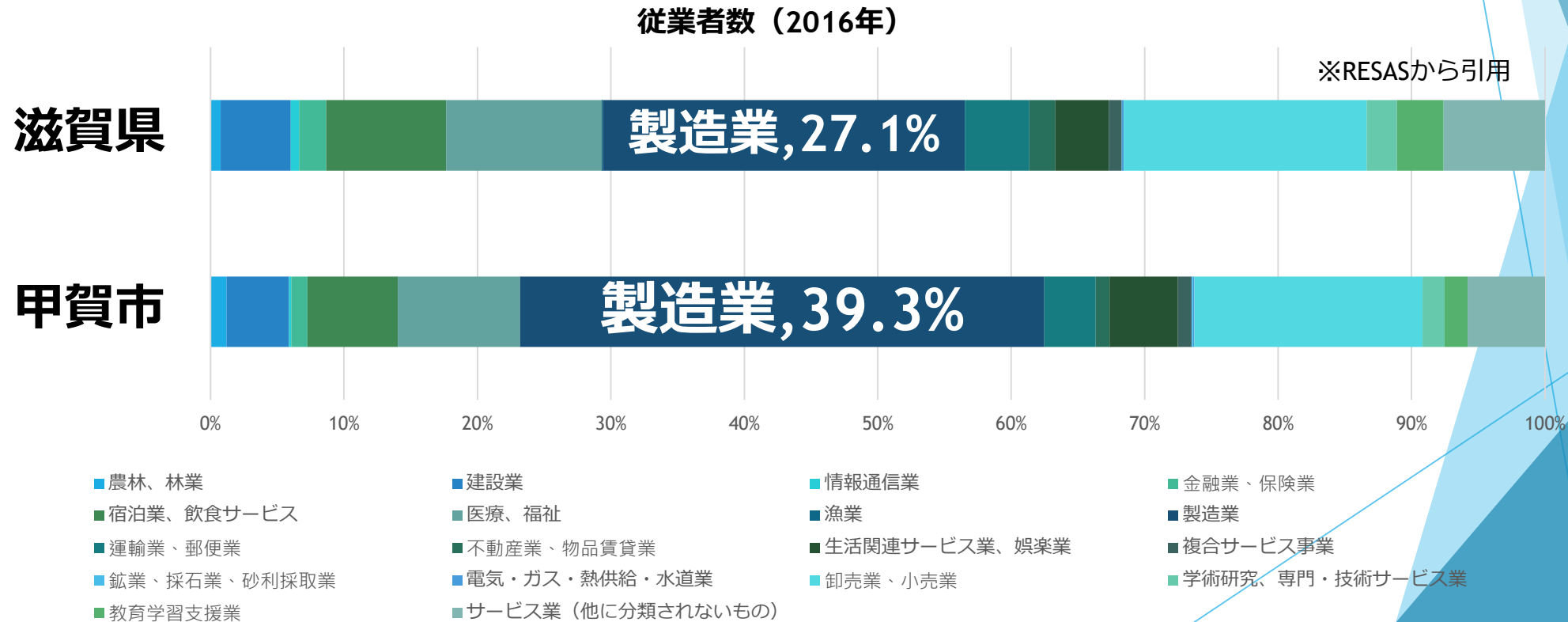
課題

2：甲賀市の地元企業と 若者の希望する職のミスマッチ

- ・「やりたい仕事がない」というけど、やりたくない仕事は何となくある。でもそれ、偏見の塊では??
知らないからなのでは？

甲賀市における製造業の重要さ

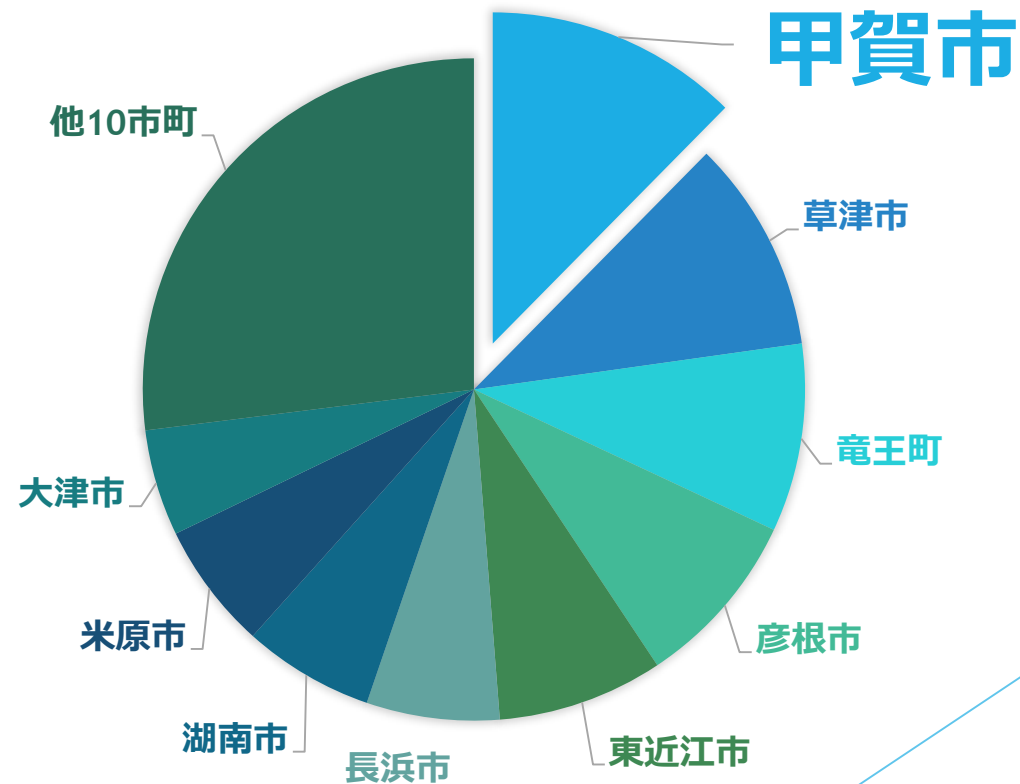
市内で働いている人の中で、製造業に携わる人数がNo. 1



甲賀市における製造業の重要さ

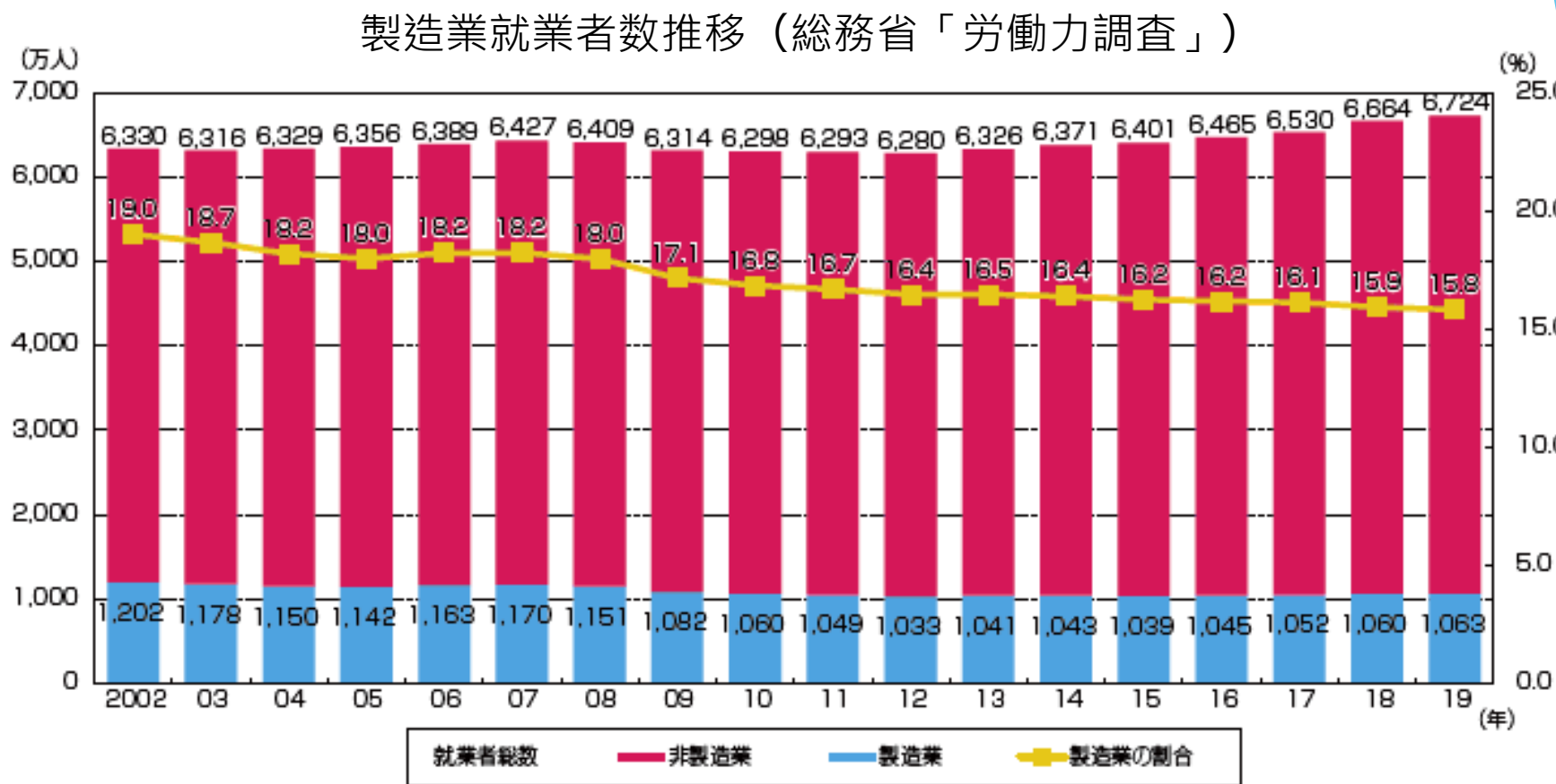
- ・ 滋賀県内の製造品出荷額 13年連続1位（R2：9425億円！！）

製造品出荷額等構成割合(2020年)



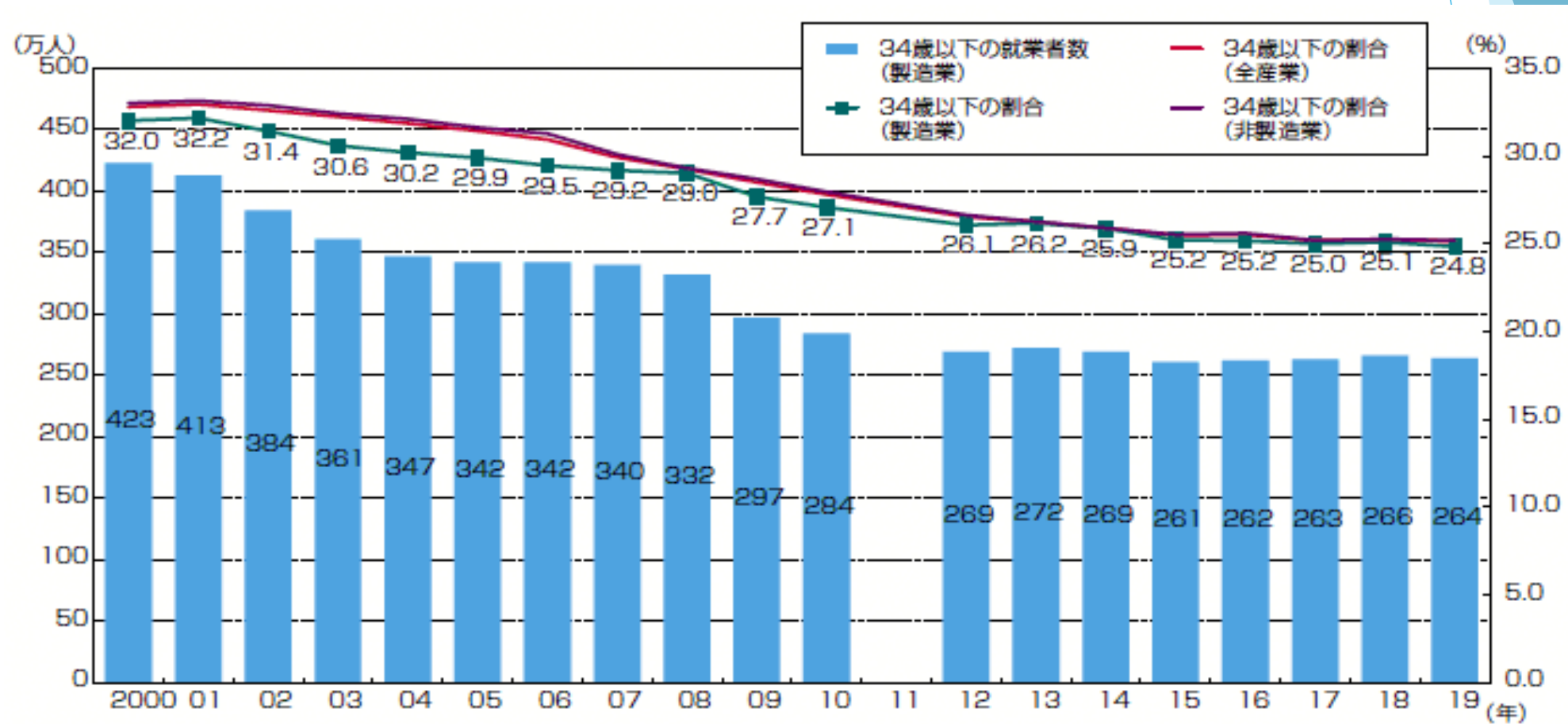
製造業は全国的に人手不足

- ▶ 20年間で国内の製造業就業者数は11.6%減少



さらに若手不足でもある

製造業の若年就業者数(34歳以下)は減少傾向(総務省「労働力調査」)



解決の方向性

学生と企業をつなぎ、地方製造業のさらなる発展を目指す

▶ 目的

- ・ 人手不足が深刻化した地方製造業のイメージアップ
- ・ 地域を作る地方中小企業が学生に目を向けられない現実から脱却
- ・ 学生・企業・地域でつながる
- ・ 就活における企業と学生のミスマッチの解消

▶ 解決策

- ・ 学生と企業をつなげる仕組みづくり

解決策 1

一泊二日インターンシップ

- ・ 1 日目はいつも通りのインターン
- ・ 2 日目はバスツアーなど街を知れるようなイベントへの参加
→ 1 日目、それぞれの会社に行った人が2日目集まって情報交換してもらう場にしてもらう
- ・ 1 泊 2 日にすることで旅行など遊びに行く先の候補にいらてもらう
- ・ 観光協会や商工会の協力をあおぐ、最初は行政主導で後々は地元企業自らがやっていけるように

予算

- ・事前準備の予算：130万（募集にかかる費用（チラシHP）、キャリアカウンセラーの業務委託（企業側とのカウンセリング、学生側とのカウンセリング、マッチング））

- ・1泊2日のインターンの予算：40万（宿泊費全額補助、バス使用料、ガソリン代、運転手の人件費、施設の入館料）

参考：大阪のとあるバス会社の1日レンタル費用：10万

参考：甲賀市の女性の起業支援：500万（320万分が業務委託費）

⇒総額：170万円程度

解決策 2

学生×社会人の食事会

食事会で社会人と学生がつながる就活の場

→退職理由ナンバーワンの「人間関係」への心配を減らす

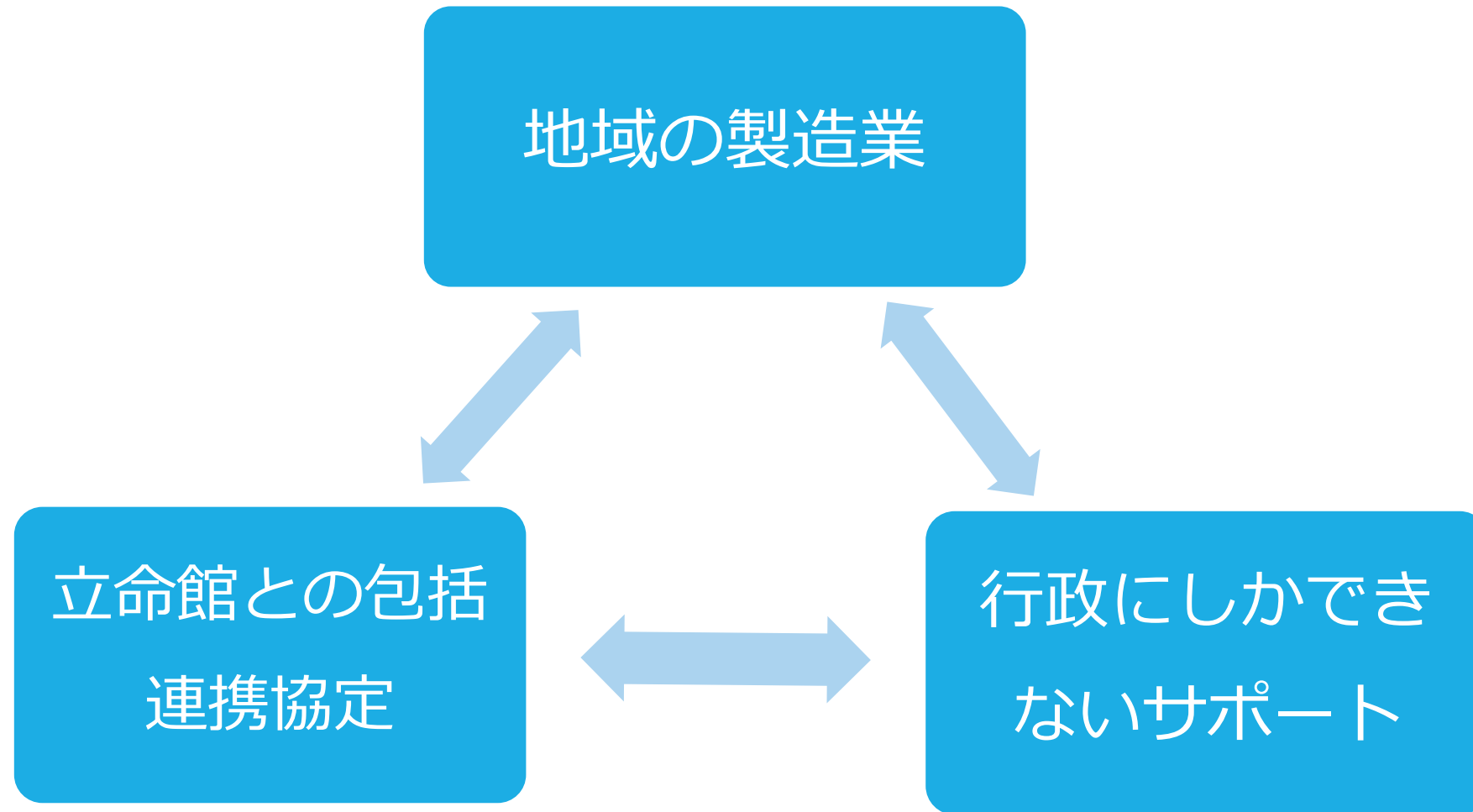
- ・会社説明、若手社員や社長、学生とのディスカッション
- ・既存の会社説明では聞けない業界のリアルを知れる
- ・働くことに対する意識を実際に働いている人に聞ける
- ・地元の人とのつながり

予算

想定：休日昼、年間4回、各回学生30人前後、企業側10人前後
20万（飲食代の補助）

展望

産・官・学の連携によるつながり創出



展望

事業の継続を目指して

▶ 中小企業経営支援等対策費補助金（若者人材確保プロジェクトの実証）

本事業は、民間事業者等が複数の地域企業を束ね、地方自治体、業界団体、経営支援機関等とも連携し、（中略）

本事業を通じて地域において当該取組が民間ビジネスとして自立・継続していくことを促し、ひいては地域の共通課題である若者人材の流出を防止・流入を促進することを目的とします。

▶ 地方創生推進交付金

交付対象者は地方公共団体。まち・ひと・しごと創生法に基づき作成された総合戦略に位置付けられた自主的・主体的で先導的な事業の実施にあてられる。

終わりに

ご清聴ありがとうございました。